

平成 31 年第 416 回信濃町議会定例会 3 月会議会議録（3 日目）

（平成 31 年 3 月 6 日 午後 1 時 55 分）

●議長（小林幸雄） それでは、会議を再開いたします。

通告の 4 湊喜一議員。

- 1 敬老祝い品について
- 2 地域防災計画について

議席番号 10 番・湊喜一議員。

◆10 番（湊 喜一） 議席番号 10 番・湊喜一です。通告に従い、質問をさせていただきます。

まず最初に、敬老祝い品についてでございますが、今、信濃町の敬老祝い品というのは、米寿と 100 歳で座布団、他数点の祝い品を、町長自ら、お配りになっていると。選べるようになる以前は、赤い座布団だけだったのが、最近は、少し選べるようになってきていると。これは、町民がある意味では喜んでいる部分だと思われまます。私の方は、これをもうちょっと拡充していただきたいと思ひまして、今回、一般質問の題材に取り上げさせていただきます。要旨の説明の中にも書いておりますが、長野市では、この敬老祝い品として喜寿、77 歳ですね、77 歳の方に敬老祝い品として、写真撮影というものをしておられます。写真館に行って、写真を取って、キャビネ版にプリントして、それをもらうという。それが非常に人気が高い敬老祝い品で、長野市は、信濃町に比べて、はるかに人口が多いのでしょうけれども、データをいただきますと、77 歳で、平成 24 年度はだいたい 1600 数人、平成 23 年度は 1300 数名、平成 22 年は 1500 を少し切ったぐらいの数字の方が、この写真を撮られていると。これは、ある意味、私、前回、前々回、終活という質問をさせていただきましたけれども、要するに、元気で、また、しっかり笑顔を作る間に写真を撮っておいて、最後の自分の遺影にするというような考え方をしている人が、中にはおられると、そういう意味もあります。私もするなら、そういうような形で、まだ元気な間に、最後に自分の孫子に、孫とか子供、こういう人間がおったなというのを、少しでもおしゃれをしたような状態で残していきたいなと思っております。そういうところからも、写真撮影というのは、ひとつ、祝い品としてはいいなと思っております。それが、米寿 88 でやるよりも、77 歳の方がいいんじゃないかなと。長野市はこれを、かなり古くからやっているみたいなのですけれども、そういう、今、色々な所で、葬儀の時に飾っておられる写真、よく見るのが合成写真と言いますか、元気な時にあった顔だけで、喪服を張り付けている、いかにも不自然な感じの写真を飾っておられる場合が、見受けられます。それよりは、そういう形の方が、いいんじゃないかなと。高齢者の福祉の一環として、こういう事業をされるということは、お考えでしょうか。見解をお聞きします。

●議長（小林幸雄） 横川町長。

■町長（横川正知） 湊議員さんの敬老祝い品の関係で、ご本人の写真撮影を、ひとつの祝い品として提供したらどうかと、こういうことだろうと思います。今、信濃町は、ご案内のように、88 歳と、それから 100 歳の方に、今、お話しがありましたように、ご本人から、座布団だとか時計、あるいは、シャープペンとボールペンのセットですか、書くものですね、そんなような物を選んでいただいて、お送りをしているということでございます。私これ、今、湊喜一議員さんから通告をいただき、ずっと考えていましたけれども、極めてデリケートな問題だなというふうに、実は思っているのです。やっぱりそれぞれの皆さん方の捉え方というのは、果たしてどうなんだろうと。それは、希望で、ということになれば、それまででしょうけれども、公で、長野市さんがやられていることに対しては、とやかく言う立場じゃございませんけれども、私自身、身に置き換えたときに、まあ、そういうことで、準備しておけよと、こんな意味の写真撮影、公に提供することがいかなものかと思うところであります。特にまたこれ、長野市さんは 77 歳ということで、そんなことを提供されているということでございますが、私共信濃町にとっては、ちょっと色々な町民の皆さんの感情も、複雑に絡むだろうというふうに思いますので、純粋にお祝いという形での、取り組みというのは、この信濃町で行うのは、なかなか難しいんじゃないかなというふうに思っているところであります。

●議長（小林幸雄） 湊議員。

◆10 番（湊 喜一） 町長は、難しいという考え方、77 歳を祝うというところで写真撮影、それはまあ、元気な間ですから、自分の写真を生前中から、というか、元気な間にしっかり飾っておくということは、それはそれで良いことだと思う。町からこういう祝い品をいただいたと。長野市は、そういう意味じゃ、非常に、優れた考え方をしているのかなと思っているのですけれども、この 77 歳、敬老祝い品として、長野市のホームページを色々探しているときに、課としての提案というのがありまして、75 歳、若年寄のすすめという、保健福祉部の高齢者活躍支援課というのがありまして、市長からの提案というかたちで、75 歳はまだ若年寄だよと、まだまだ生産年齢という意味だと思うのですけれども、そういう市長が提案をされているんですね。長野市は、高齢化率がまだ、30 パーセントを切っている、28 パーセント台、29 パーセントに近い数字なので、そういうかたちもあるのでしょうかけれども、これは、町全体のこういう考え方をしていくと、町全体、信濃町全体が、非常に若々しくなるんじゃないかなと。その中にありましたのは、65 歳から 74 歳までは、「わけしょ」若者という意味ですよ。私、こちらの出身じゃないので、「わけしょ」というのは方言だなとは、思うのですけれども、75 歳から 79 歳までが若年寄、80 歳から 89 歳までが、ちょっとお年寄り、ちょっとお年寄りです。90 歳から 99 歳の年齢の方が、もうちょっとお年寄り、100 歳からがお年寄りというラ

イフステージの呼び方を、市長から提案をされた。これがホームページに載っていて、これは、新しい考え方だと、総括りにして、65 歳からは全部高齢者というような括り方をしては、こういう考え方をして、健康年齢を上げていこうという気持ちの持ち方だけで、若返るはずですので、そういう意味で、長野市内は、活性化をしていこうとされております。この喜寿のお祝い品で、写真撮影をしているところの付録でこういかたちで、お話しをさせていただいていますが、77 歳から敬老祝い品をして、終活の入口を作るという、終活というのは何も、死ぬ準備をするという意味じゃないので、より良き終末を、自分がこういかたちで、しっかり生きた証を作っているんだという、少しでも健康年齢を、健康寿命を延ばすためのものだと、私は、思っておりますので、そういう意味でも、ぜひともこの敬老祝い品、77 歳で、写真撮影をしていただくのは、いいんじゃないかなと思って提案をさせていただきました。年齢を上げていただいてもいいと思います。米寿で、この写真撮影をする。長野市内は、77 歳と 100 歳の方の写真撮影をされているみたいです。100 歳の方は、なかなかフォトスタジオに足を向けるというのは大変なので、自宅に機材を持ち込んで、写真撮影をされているみたいですけれども、すべて、長野市が補助金を出して、この写真屋さんが、言えば、ボランティアみたいな形でされている、ボランティアじゃないのでしょうかけれども、原価すれすれぐらいでやっておられるようなところを聞いております。だいたい、原価の話をする、写真屋さんは、非常に大変になるので、お話しはしませんが、最初は、長野の写真協会が提案をされて、それに長野市が乗ったというような話も聞いております。そういう成り立ちで、この写真撮影が始まったと思うのですが、写真撮影自体、何歳で、何歳かで、信濃町は、その敬老祝い品という形でなら、されてもいいんじゃないかなと思うのです。77 歳に限らず、写真撮影というのは、再度、お聞きしますが、その辺の年齢を上げてでもしたらどうかと思うのですが、いかがでしょうか。

●議長（小林幸雄） 横川町長。

■町長（横川正知） 信濃町においては、77 歳、以前には、77 歳も対象になっていたかなと、私の記憶ではあるのです。今、湊議員さんから、長野市を含めて、長野市の写真協議会だか何だかという所で発想されて、市に提案されて、今のように写真撮影になっているということも、何となく私も承知はしております。やっぱり、年齢を上げて、冒頭の、今の終活云々という言葉が出たものですから、私は、これは、ちょっといかなものかというふうに思うところがある。そういう意味で、デリケートな部分があって、なかなか町民の皆さんには、何言っているんだと、言われるおそれもあるなど、純粋に喜んでいただけるかどうかということが、大事な事であって、そういった意味では、まったく否定をするわけじゃないですが、すぐにこのことを導入するというのは、いかなものかなということ。そしてまた、長野市長の加藤市長が提案されている、高齢者の定義というものを、75 歳にしようじゃないかと、これは私も、前に、議員さんにもお繋ぎしたこともあるかもしれませんが、当時、去年ですが、長野市の市長と、松本市の

菅谷市長さんと二人、両市長が連名で、そのそういった思いを、公表したわけです。私共、町村会の町村長の大会と言いますか、県の総会であります。58 町村を前に、わざわざ加藤市長が見えられて、その思いを、伝えていただきました。要は、今でも国では、65 歳以上を高齢者と言っていると。これは、これだけ平均寿命が伸びて、その状況でも、65 歳というのは、変わってないじゃないかと。現状の中では、もっとかくしゃくと活動しておられる 65 歳以上の皆さんが大勢いる。従って、65 歳を高齢者ということが、いかに日本の、あるいは地域の、それぞれの到達した人間の思いを、自分はまだ高齢者なんだというふうに、思ってしまう。そのことが、活力を失う一つにもなるじゃないかと、こういう発想なのですね。58 町村の中で、そういうことを提案いただいたものですから、県下 58 町村長は、みんな拍手をして、その思いに同意をしたところでありまして。ちょっと余談であります。よく見たら、両市長は、共にその年齢なんだなというふうに思いました。以上です。

●議長（小林幸雄） 湊議員。

◆10 番（湊 喜一） 思いは同じだと思います。町長も私も、同じ年齢でありますので、65 歳を少し超えておりますので、まだまだ「わけしょ」でいきたいと思っておりますので、頑張っていきたいと思っております。私ちょっと、腰を痛めて、最近足を引きずりだしましたけれども、これも早く治して頑張っていきたいと思っております。敬老祝い品の見直しという形で、お話しをさせていただきましたけれども、できれば、写真撮影に補助金を出していただくというの、選択肢の一つに考えていただくというの、良い一つだと思いますので、基準にとらわれずに、この敬老祝い品、写真撮影を付け加えていただく、担当課で、しっかり研究をしていただくということをお願いいたしますが、担当課としての考えとしては、いかがでしょうか。

●議長（小林幸雄） 松木住民福祉課長。

■住民福祉課長（松木哲也） 湊議員さんのご提案というか、質問の中で、私たちも他町村の状況等も調べさせていただきました。確かに、写真撮影を行っているのは、長野市さんのみかなというふうには、他は年齢の区切りは様々ですが、やはり記念品と賞状というような形で、渡している部分が多いのかなということで、私共は、88 歳と 100 歳の方への敬老祝い品は、賞状伝達ということで、行っております。この部分については、今年度も事業をさせていただき予定で、予算化をさせていただいておりますし、昨年度までも続けてきております。新たな年齢を加えることになると、またそれに伴う予算化等も必要になってくるかと思っておりますが、対象年齢を変えずにお祝いをする物を、そういった物に変えていくというのは、今後も検討していく必要があると思っております。過去にも、座布団だけでは、もらった方も、選択肢があった方がいいということで、いくつかの、先ほど、町長がおっしゃったような時計等、物を追加させていただいた経過があり

平成 31 年第 416 回信濃町議会定例会 3 月会議会議録（3 日目）

ますので、そういうことの見直しについては、考えていければと思います。

●議長（小林幸雄） 湊議員。

◆10 番（湊 喜一） 写真撮影についてなのですが、昔、信濃町の方では、金婚式を迎えたご夫婦を、写真撮影されていたという話を聞いたのですけれども、そういう意味じゃ、ベースとしては信濃町、そういう写真撮影はあるんじゃないかなと思うのですけれども、こういうことに詳しい方、答弁お願いしたいと思うのですけれども。こういうことがあったかどうかというのをね。

●議長（小林幸雄） 横川町長。

■町長（横川正知） 一番年していますから。あると、あったんだそうです。私も確認はしていますが、ただ、今申し上げようとしたのは、当時は、金婚式をやっていました。金婚の皆さんのお祝いを。これやっぱり、その時、金婚のお祝いをやめたというのは、結果的に、お一人でも、大変な苦勞をして、生きてこられている、その人達を抜きにして、金婚だけでお祝いするのはいかなものかと、こういう中で、そのこと自体は、取り止めになったと。写真は、撮ったということですが、そんな正式に、こういうふうに入額に入ってまでは、なかったかと思います。記憶だから。

●議長（小林幸雄） 湊議員。

◆10 番（湊 喜一） あまり写真に関わっていると、時間ばかり経ってしまうので、そんな大きなキャビネ版ぐらいじゃないかと思うのですけれども、写真の大きさのサイズの呼び方を、私も分からないので、これ以上は言いませんが、ぜひとも、この写真撮影というのを、終活というものの考え方を町民に広く、広めるためにも、一つの方策になると思いますので、ぜひとも写真撮影を加えていただくことをお願いいたしまして、次の質問に移りたいと思います。

続いて、地域防災計画についてであります。災害時の避難方法など、自分自身が立案して、地区防災計画というもの、要するに、自分と自分の家族、それと自分の住まいの両隣くらいの範囲ですか、そういう防災計画、避難計画、災害時にはどうしたらいいかということ、シミュレーションして考えていこうということが、平成 25 年の災害対策基本法の改正で創設されております。これが、平成 26 年の 4 月に施行されております。これは、東日本大震災で、自治体の機能が完全に麻痺してしまっていたのを、教訓にされていると。地域の特性に応じた、その地区の範囲や活動については柔軟に考えていく。私自身は 2、3 軒の間の範囲で、お互いにお話しをして、こういうときには、こういうふうにしましょう、というようなことを常々、防災の意識を高めようと、そういうふう、そういう形で、努力義務でしょうけれども、そういうふうに行っていきまし

平成 31 年第 416 回信濃町議会定例会 3 月会議会議録（3 日目）

ょうということで、法律ができております。そういうので、再三、この自主防災組織の構築というのを訴えておりました。一番単位として、信濃町で機能しているのは、各常会と言いますか、その集落ごとに組織化されておりますので、その常会で、自主防災組織というものを、行政主導じゃなくて、しっかりやっていただきたいということを訴えて、信濃町もしっかりそういう形で答えていただいて、町長も、町政懇談会の折なんかには、そういうお話しをされておるといことは、非常に評価いたします。その後、この町の総務課の方で、自主防災組織活動マニュアルという冊子、これを、常会の総代さん辺りに、配られて、非常によくできた本で、すべてのことが網羅されている。これだけで、一日取り上げて、一般質問できるぐらいのボリュームがあるような、これ、本当に非常によくできた本で、これは平成 26 年ぐらいに、各総代さんに配られたと思うのですけれども、その後、防災組織が立ち上がったと、あまり聞かないのですよね。これで、この自主防災組織はどのぐらい、今、信濃町の中で、出来ているのか、その数、分かっていると思うので、お答えいただきたいと思うのですが。

●議長（小林幸雄） 小林総務課長。

■総務課長（小林義之） それでは、私の方から、説明をさせていただきます。現在、町内におきましては、7つの自主防災組織が結成をされております。区の単位で2つ、あとは、集落単位の組単位で5つが現在、結成をされておるところでございます。

●議長（小林幸雄） 湊議員。

◆10 番（湊 喜一） 以前に聞いた時には、3箇所ぐらいだったのが、今7つになっていると。若干、前へ進んだかなと。一つ聞くのを忘れた。集落で、信濃町にはどういうくくりで、どれだけのそういう組織があるのか、ちょっとお聞かせください。何分の何という形で、この自主防災組織ができているのかという、パーセントで教えていただきたいと思います。

●議長（小林幸雄） 小林総務課長。

■総務課長（小林義之） 現在、信濃町の全体の集落につきまして 96 でございますので、割り返しますと 7.3 パーセントということですが、今回、区というような立場で、集落を含んだ中で、2つが入っておりますので、多少それよりは、増えるというような状況となっております。

●議長（小林幸雄） 湊議員。

◆10 番（湊 喜一） まだ、一桁と言う感じですね。これ、なかなか進まないのは、何か

理由があるのかなと、色々考えたのですけれども、私も分からなくて、なかなか進んでいかないというのは、1つは、こういうような組織を作ったら、また役が回ってくるんじゃないかなと思われる方が多いのかもわからないのですけれども、進んでいかない原因というのは、何かと思われませんか。

●議長（小林幸雄） 小林総務課長。

■総務課長（小林義之） 町の今の取り組みの状況を、まず説明させていただきます。組織の結成につきましては、春の総代会におきまして、毎年、地区での検討をお願いして、先ほど、ありましたけれども、平成 26 年度には、自主防災組織の活動マニュアルを総代さん、組に一部ではございますけれども、お渡しをして、役員交代時には、引き継ぎをしながら、結成の方を、お願いしてきたところでもあります。また、毎年ですけれども、全戸配布の 1 枚ものの、自主防災組織を作りましょうというようなチラシも配りながら、お願いをしてくれているところがございます。結成に当たりましては、各組から結成届、規約ですとか役員名簿、役員の系統図、また、自主防災計画を提出していただいております。地域においては、自主防災組織の取り組みの必要性については、十分に理解はされていることとは思っておりますけれども、地域によっては、水害ですとか、土砂災害の危険な箇所がない地域もありまして、そういう部分で、進まなかったり、また、組織作り等、煩雑な事務処理なども必要なことから、組織の結成までには至っていないのではないかと思っております。柏原ですけれども、私の組におきましても、そういう、今回の組、総代さん宛のお話しをさせてもらう中で、地域の中では、白馬村で起きたような地震に対応するような形で、地震が起きたら、伍長単位で、地区の見回りをして、総代さんに、どういう状況だという報告をするという、そんなところまではいっているのですけれども、なかなか自主防災組織までという所までいってないのが、地区の状況ではないかというようなふうに考えております。

●議長（小林幸雄） 湊議員。

◆10 番（湊 喜一） 自主防災組織で、このマニュアルを見て、この色々な、煩雑な事務処理と言うのですか、があるのが一つマイナスなのかなとは思いますが、白馬村で、神城断層地震のとき、潰れた家屋から、除雪用の重機を持ってきて、引っ張り出したという、そういう話もありましたけれども、それはご近所さんですね。自助、共助の部分の、共助だと思います。その共助の力をさらに強く発揮できるのが、この自主防災組織だと思いますので、そのご近所さんで、防災のことについて、語り合う機会が必要だと思います。この自主防災組織を作ることによって防災に、災害に対する意識が変わると思います。そういう意味でもこれは、ひとつの防災教育の一環だと思っております。そういうところで、防災士という資格があって、結構色々な人が取っております。そういう方を招いて、防災教育というのを、町もやっていく必要があると思うのですけれども、そ

平成 31 年第 416 回信濃町議会定例会 3 月会議会議録（3 日目）

の辺は、そういうことを考えておられますかね。防災教育というもの。

●議長（小林幸雄） 小林総務課長。

■総務課長（小林義之） 町としましては、今、ハザードマップを作成しておりますので、そういうものを活用して、住民懇談会で説明が必要な地区に出向いたり、また防災訓練に合わせて、先ほどのような防災士さんになりますか、分かりませんが、防災セミナーというような研修もする中で、自主防災組織の結成について、住民に対するセミナーみたいなものを研修として、開催できたらというふうなことは、考えております。

●議長（小林幸雄） 湊議員。

◆10 番（湊 喜一） 以前も、防災教育という、教育長に振ったような記憶もあるのですが、学校で、そういう防災教育をされているのかというお話もさせていただきました。一番大事なのはやはり、住民に防災を、防災というのは、どういうものなのかという話は、しっかりしていかないと駄目だと思うのですが、去年、台風の大雨で土砂崩落しました。この災害、何という沢でしたか、変わった名前なので、忘れてしまいましたけれども、スキー場の隣ですよ。すぐそばの沢が。それで、この災害マップとこの防災計画の中で、あそこ、そんなに崩れやすいのかなと思って、この中を調べたのですが、その沢、載ってなくて、言えば、想定外の沢が崩れたと思われまして。こういう想定外がいっぱいあるので、そういう意味でも、災害の場所と違う所で水が出た、黒姫保養地の中の 2 軒が床下浸水、その日の内に、私も見に行きましたけれども、大きな災害にならなくて、人的な災害にならなくて良かったなと思っております。ハザードマップにもない場所に水が流れていった。多少はイエローゾーンにもかかっているのかもわからないですけれども、住民にとっては、想定外の水、どこからこんな水が出てくるのか分からなかったというお話しでしたから、後で、納得はされておりましたけれども、そういうこともあります。ですから、日頃から、そういう防災に関する備えというものを考えておらないと駄目だと思うので、その防災教育、今後はその強化されていく、この自主防災組織の立ち上げというもの、やはり、強く言っていただく必要があると思うのですけれども、見解をお聞きします。

●議長（小林幸雄） 小林総務課長。

■総務課長（小林義之） 昨年起きた、心臓の沢（ツメタ沢）という沢の所ですけれども、これについては、一応土砂災害のハザードマップ、町で作成した所の部分では、土砂災害のハザードマップにかかっている部分でございます。皆さんにお配りした、大きな防災マップに載っている所でございます。また、水路が溢れたというような部分につきましては、その上流で、水路が閉塞をしたり、そういう部分で、想定外の色々な状況が重

なる中で、水が浸水したというような状況でございます。

防災教育につきましては、やはり町で作っております防災マップを活用しながら、集落単位で、その地域で、どのような災害が起きるかというようなことも想定をする中で、皆さん方がどういうときに、どういう行動をすればいいかというものを、地域の中で考えていただくような形をとっていただければと思っております。その中で、毎年、自主防災組織については、総代さんを通じて行っているところでもありますけれども、総代さんも1年で代わられますので、地区の中でも、やはり中心になって、継続的に行ってもらえるような、そういう活動をされている方が中心になるような形で、人材育成も含める中で、対応をしていただければというふうには、考えております。

●議長（小林幸雄） 湊議員。

- ◆10 番（湊 喜一） ぜひとも、しっかり進めていっていただきたいと思うのですが、それと、まだ、一般会計の予算が通っておりませんが、あの中で、私も質問をさせていただきますが、集落ごとの10万円というやつをね。ぜひとも、そういう組織は、その10万円なんかを、そういう予算を取って、防災グッズなんかを購入していただく、ある意味、県の元気づくり支援金を利用すれば、30万円ですか、そういうような形で、防災グッズ、そこの地区で起こる災害は変わると思います。私の住んでいる所は、土石流の危険が一番多い、地震にはけっこう地盤が固くて、地震には結構強くなるんじゃないかなど。一番、怖いのは、土石流だろうと。そういう、集落ごとに違うと思います。どこどこは地盤が弱いから、地震が起こった時には、液状化現象が起こるかも分からないよと。元々ここは、沼地だった所、という所ならば、液状化現象が出る、そういうことも予測、想定をしていかなければならない、その辺は、やはり住民、それこそ長老の意見を聞くみたいな、東日本大震災の時に、その長老が、津波が来たら、どこどこに逃げろっていうのか、何だったけな、そういう話があった、その長老の話聞いて、子供たちは、一目散に山へ駆け上がったと、それで、助かったという話もありました。長老の意見は、聞かなければならないという部分もあるでしょう。これ、一つの防災教育だったと思います。そういう集落ごとに、そういう取り組みをしていく必要があると思うので、ぜひとも、総代会だけではなく、できる限り、町政懇談会など、あと総合訓練ですね、総合防災訓練でいいですか、各集落ごとにありますけれども、集落ごとに回って行くのでしょうかけれども、パネルで、こういう災害があったときに、ここでこう流れたら、こっちに逃げればいいと、ここで、こっちが流れれば、こっちへ逃げないと駄目。流れた方向に逃げていけば、確実に命の危険にさらされるということですので、そういうシミュレーションも、ゲーム感覚で楽しんでやって、楽しんでやっていったら駄目でしょうけれども、真剣に、そういうことをしていく必要があるので、こういう機会をもっと増やしていただくといいかなというのを、訴えるのですが、そういう機会をたくさん作るというチャンスというものが、どのぐらいあるものか、町政懇談会の折にも、そういう話もしていただくということ、どうなのでしょう。できるでしょうか。

●議長（小林幸雄） 小林総務課長。

■総務課長（小林義之） 防災訓練につきましては、消火器の訓練ですとか、色々な訓練を行っておりますので、その時にできるかどうか、ちょっと分からないのですけれども、先ほど申されたような、図上訓練のようなシミュレーションというような形は、必要かと思っております。町政懇談会の中で、時間があれば、そんなこともやれば、やっていきたいと思えますし、また、地元の区や、組の方から要請があれば、町としても、出向いて対応をしていきたいというふうには考えております。

●議長（小林幸雄） 湊議員。

◆10 番（湊 喜一） 総代会の時なんかにはやればいいんだという話を、今、後ろの方から助け舟がありまして、それもそうだな、総代会でそういう話をさせていただく、そこで私も、もう一つ思いついたのですが、以前、避難所ということに関して、質問をさせていただいた時に、避難所運営マニュアルというのか、ゲーム、信濃町は買って持っておりますという話をされておりました。ぜひとも、そういうゲームを、総代会の時にやっていただくというのもいいんじゃないかなと。実は、委員会の方でも、避難所運営のゲームを、議員の中でやっていこうよという提案はしているのですけれども、まだ実現はしていませんが、そういうことも、災害の対策の一つとして、しっかり我々はやっていくべきだと思うのですけれども、そういう、遊びじゃないのでね、そういうことができるのかどうか、ちょっとお聞きします。

●議長（小林幸雄） 小林総務課長。

■総務課長（小林義之） 総代会につきましては、半日単位で、各地区を回らせてもらっておりまして、各課からの色々な 1 年の事業内容の説明をさせていただいております。半日の中で、そこまで細かい部分を、すべて説明したりするというのは、なかなか難しいのですけれども、総代会の中におきまして、毎年一応、自主防災組織については、結成をしていただくような形というのは、今現在も、毎年行っているところであります。また、避難所の運営ゲームというような部分でございますけれども、それも、どんな形でできるかという時間的な部分も限られますので、どんな形でできるかどうか、また検討をさせていただきたいと思えます。

●議長（小林幸雄） 湊議員。

◆10 番（湊 喜一） あと、自主防災組織の色々な事務的なことですね。これにも、活動マニュアルの中にも、書類があります。町のホームページにも載っているということで

平成 31 年第 416 回信濃町議会定例会 3 月会議会議録（3 日目）

すけれども、事務手続きの申請の色々な煩雑さが、できない一つの要因かも知れない、この辺の事務処理の方法の簡素化というの、また、考えていただきたいと思うのですけれども、職員の、高い能力を発揮していただいて、簡素化ということが出来るのかどうか、考えていただけるのかどうか、研究していただけるのかどうか、お聞きしておきます。

●議長（小林幸雄） 小林総務課長。

■総務課長（小林義之） 今現在、規約ですとか、計画の策定につきましては、ホームページに載せていますので、その内容を見ていただく中で、どんな形で書類を直せばいいのか、簡単にできます。ホームページの様式を利用していただければ、簡単にできるような状況になっておりますので、ご利用いただければと思っておりますので、簡素化となりますと逆に、本来の目的を逸してしまう部分がございますので、そういう部分では、地区の中で、どういう形でできる、何が必要かという部分は、拾いながらやってもらいたいというふうには考えております。

●議長（小林幸雄） 湊議員。

◆10 番（湊 喜一） これは、最後の放送が、防災無線で放送が流れますので、町民の皆さんに、自主防災組織というのは、非常に大事な組織で、自分の防災意識を高めるということと、周辺の人達と協力をして、自分たちの生活の安全を守るという、大事な組織になると思いますので、ぜひともそういう形で、自主防災組織を作っていきましょうということと呼びかけまして、私の一般質問とさせていただきます。

●議長（小林幸雄） 以上で、湊喜一議員の一般質問を終わります。この際、2時55分まで、暫時休憩といたします。

(午後 2 時 40 分)